

教養学部教養学科超域文化科学分科

表象文化論コース・ガイダンス資料

コース HP : <https://repre.c.u-tokyo.ac.jp/> (大学院の組織にもとづいているため掲載スタッフが一部異なります)

表象文化論は、多様なジャンルの芸術・文化に対して横断的にアプローチする学問です。1986年、東大教養学部に学科が設立されて始まった、比較的若い学問分野で、それゆえの野心的な進取の気風が特徴です。ほかにも次のような特徴があります。

- ・ジャンル間の影響関係といった現象面での横断性よりも、多様なジャンルを貫く共通の歴史的条件や理論的問題の抽出に関心を向けます。
- ・映画をはじめとする視覚・映像文化と、演劇などのパフォーマンス芸術の研究を柱のひとつとしています。
- ・文化創造・実践の現場との関わりを重視します。

スタッフ

コースの専任教員は14名です。

	専門分野	今年度の講義題目 (カッコ内は開講semester)
一條 麻美子	中世ドイツ文学	「異界」について—ヨーロッパの伝統から— (A)
ジョン・オデイ	分析哲学、心の哲学	Historical Introduction to Analytic Philosophy (S)
加治屋 健司	現代美術史	パブリック・アートと社会 (S)
マチュー・カペル	映画学、日本映画	映画を詳述すること、あるいは眼差しの構造 (S)
河合 祥一郎	16-17世紀イギリス演劇	シェイクスピアの『テンペスト』を原語で読む (A)

韓 燕麗	映画学、中国語映画	『中国映画のみかた』から「映画の見方」を学ぶ (A)
桑田 光平	フランス文学・芸術論	卒業論文執筆のために (S)
清水 晶子	フェミニズム・クィア理論	#MeToo、 ホワイト・フェミニズム、監獄フェミニズム (A)
竹峰 義和	近現代ドイツ思想史、映像文化論	暴力論再考—ベンヤミン「暴力批判論」を出発点に (A)
田中 純	思想史、視覚文化論	歌／声の representation (上演＝表象) (S)
長木 誠司	音楽学、現代音楽	国歌 national anthem (hymn)の成立と受容 (A)
中井 悠	実験・電子音楽、歴史的音楽学	経験の上演：パフォーマンスとプラグマティズム (A)
乗松 亨平	ロシア文学・思想	ドストエフスキー『罪と罰』を読む (A)
森元 庸介	思想史	ジャン・ルーシュについて (S)

他コース・部署所属の教員にも授業を提供してもらっています。

朝倉 友海	哲学・比較思想	現代哲学の諸問題：意味と存在を中心に (S)
沖本 幸子	日本中世演劇・芸能	『新猿楽記』を読む—中世、庶民文化への誘い (A)
中島 隆博	中国哲学	世界哲学史を読む (A)
星野 太	美学	「植物の生」をめぐる思想と表象—エマヌエーレ・コッチャを読む (A)

非常勤講師にも授業をお願いしています。A セメスターにアーティスト講師による美術実習の授業が追加される可能性があります。

2020 年度授業題目

井上 貴子	ワールドミュージックから K-POP まで——アジアのポピュラー音楽と社会 (S)
岩下 朋世	マンガとそのメディア (A)
野村 喜和夫	詩脳講義——詩を読む愉しみ／詩を書く悦び (S)
松永 伸司	分析美学とビデオゲーム (S)

履修制度

卒業には76単位が必要です。そのうち、卒業論文10単位、高度教養科目6単位以上（そのうち超域文化科学分科が提供する高度教養科目は2単位までしか含まれない）、言語科目22単位以上（同一言語12単位以上を含めて2言語以上）、表象文化論コース科目28単位以上が必要です。コース科目については、科目名（講義題目とは違うものです）「表象文化基礎論」「表象文化基礎論演習」「表象システム論」「表象メディア論」「表象文化史」「表象文化史演習」「表象文化論実習Ⅰ」（4Sに履修）「表象文化論実習Ⅱ」（2Aに履修）は必修科目で、卒業までにかならず一度履修しなければなりません。また、必修以外のコース科目のなかから、演習科目を4単位以上取得しなければなりません。各科目の授業内容は毎年変わりますが、一度単位を取得した科目は再履修できませんので、その点を考慮して履修してください。ただし、同一講義が複数の科目名で開講されている場合もあります。詳しくは『教養学部便覧』をかならず参照してください。

研究室・学生室

18号館3階に表象文化論研究室があり、事務担当の下城結子さんが、今semesterは月・火・木・金の10～17時（12時45分～13時45分は昼休み）に開室予定です。8号館3階308室は表象文化論学生室（院生と共用）となっており、3S以降、自習等に使うことができます。その向かいの307室は教務補佐室となっており、教務補佐の菊間晴子さんが水・木の13～17時に開室の予定です。いずれも祝日は閉室。

過去3年間の卒業論文題目

- ・ジャン=ジャック・ルクーのデッサンにおける人体と建築の表象
- ・ジョルジュ・バタイユの「異質学」
- ・テレビジョンから革命の理論へ
- ・浦沢直樹『PLUTO』論
- ・都市型国際美術展としての横浜トリエンナーレ
- ・野田秀樹作品における「天皇」表象の問題
- ・フォーク歌手フィル・オックスのプロテスト性
- ・能（井筒）における夢とワキの立場
- ・民族誌映画の新たなプラットフォームへ
- ・ピクサーの特徴的表現技術から解析する映画『リメンバー・ミー』（2017）の表現の独自性
- ・是枝裕和作品論——ジャンルとしての家族映画のこれまでといま
- ・スーパー歌舞伎Ⅱ『ワンピース』から見る現代の歌舞伎

- ・復元という行為——映画『ジュラシック・パーク』シリーズにおける古生物の表象 ・濱口竜介の時間と空間
- ・現代日本における芸術と公共性——「表現の不自由展・その後」を中心に ・ジュディス・バトラーにおける責任論
- ・〈娘役〉のクィアネス——花總まりを例に ・相米慎二監督作品における通過儀礼
- ・宮崎駿の飛翔表現における機械と魔法 ・アニメーション作品におけるタイムスリップ
- ・マジックの美的経験 イリュージョンからフィクションへ ・二次創作とファンコミュニティ 『Undertale』AU を事例に
- ・脱毛行為と美しい身体——身体加工における眼差しと感覚——
- ・津島佑子の後期作品における動物——『笑いオオカミ』と『ナラ・レポート』を中心に